

学校教育目標	のびやかに バランスよく 生きる力を育てます すなおに互いのよさを認め合う子ども(徳) ずっとめあてに向かって挑戦し続ける子ども(知) かかわり、支えあいながら、行動する子ども(開) けんこうで、たくましい子ども(体) しょうらいの夢をもち、自分のよさを広げる子ども(公)				
	学校概要	創立 16 周年	学校長 幸柳 康弘	副校長 藤田 健太郎	2 学期制
児童生徒数: 243 人		主な関係校: 丸山台中学校・丸山台小学校・下野庭小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	丸山台中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力>	丸山台中学校 丸山台小学校 下野庭小学校 野庭すずかけ小学校	○いつも元気よく、相手や場に応じたあいさつができる子ども○自他のよさを認め、人とのつながりやかかわりを大切にする子ども○主体的に学習に取り組み、学んだことを生活にいかそうとする子ども○積極的に地域社会にかかわろうとする子ども 小中の連携を深め、授業力の向上を目指して ・授業参観及び研究協議の機会を年4回設定します。 ・担当者会議を年5回設定します。 ・小中職員が一堂に会する合同研修会を年1回設定します。

中期取組目標	◎友達とのかかわりを大切にし、一人ひとりが自信をもって安心して過ごせる学校にします。 ・子どもの実態に即した手立てを工夫し、わかる楽しさ・学び合う楽しさを味わえる授業づくりを推進します。 ・学級・学年の活動のみならず、ふれあい活動や異学年交流の活動など様々な活動から、児童の自己有用感を育みます。 ・全教職員で全児童を指導するため、共有の時間を確保したり体制を整えたりして情報・体制を共有し、児童が安心して過ごせるように支援します。 ・学校教育全般を通して互いに認め合い、高め合える学級集団をつくります。
---------------	--

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①個別最適な学びと協働的な学びを意識した授業改善を行い、子ども一人ひとりが主体的に学べるよう授業改善を行う。 ②算数科を通して、児童が学びを「つくろう」「つくっていこう」という思いをもち、自己肯定感を高めていけるよう重点研究を進めていく。 ③ICT機器、デジタル教科書を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びが促進できるようにする。
担当	重点研推進委員会	
徳	人権教育	①年間を通して、「あいさつ運動」を行い、日常的に挨拶を大切にし心の情操を育む。 ②人権週間では、各クラスで友達との関わりについて、めあてを決めて取り組む。学年の実態に応じて授業を行ったり外部機関などと連携したりして人権意識を高めていく。 ③性の多様性を意識した内容を学年暦に計画し、実施していく。
担当	道徳部	
体	健康教育	①望ましい運動習慣が身に付くよう、毎週月曜日を「外遊びタイム」とし、学級ごとにドッジボールまたはドッジビーに取り組み、体を動かすことの楽しさにふれることで運動の日常化を図る。 ②学校保健委員会の取組とつなげながら、望ましい生活習慣が定着するよう学級でめあてを決めて取り組んだり、家庭との連携を深めたりする。
担当	体育部	
公開	自分づくり教育 (キャリア教育)	①夢や希望をもてるように、畑ボランティアなどの地域の方や、出前授業などでプロや専門家とかわる機会を設け、自分の将来について考える場面を設定する。②年度初めの目標設定の際などに、「自分づくりパスポート」を活用し、自分自身を振り返る機会を設ける。
担当	第一委員会	
いじめへの対応		①児童一人ひとりが自分や他の人のよさを認め合い、誰もが安心して豊かに生活できる環境をつくる。②児童に対して定期的なアンケートや個別の面談を実施し児童一人ひとりの気持ちに寄り添うとともに、教職員間で情報の共有を密にしながら状況の把握をし、いじめの未然防止に努める。③いじめの早期解決を目指し、保護者、地域や関係機関と連携し、情報を共有しながら指導に当たる。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・ 組織運営(働き方)		①メンターチームの研修内容を全職員で共有して研修に多くの職員がかかわり、人材育成に取り組む。組織を工夫し、効果的にOJTを進める。 ②事前資料配付やICT等を活用を進めて時間短縮に努める。
担当	教務部	
児童生徒指導		①「野庭すずかけスタンダード」をもとに、全職員で共通した指導を行う。また、児童の実態に応じて見直し、修正を行う。②児童が望ましい規範意識をもち、豊かな人間関係をつくれるよう、児童に寄り添った丁寧な指導を行う。③全職員で児童の情報を共有し、指導や支援の方法について共通理解を図る。
担当	第二委員会	
特別支援教育		①個別支援学級児童の交流活動をできるだけ多く取り入れ、互いの理解が深められるようにする。②連絡・校内委員会で支援を要する児童の情報交換をしたり支援の仕方を話し合ったりする。成長の様子も共有する。③特別支援の研修を全体で行ったり、校内委員会の中でミニ研修を行ったりしながら特別支援教育について理解を深める。
担当	特別支援教育校内委員会	
地域連携		①学校ホームページを充実させることで、学校の行事だけでなく普段の児童の様子を分かりやすく紹介できるようにする。②地域全体で子どもたちを育てていくために、これまでに関わっていただいた地域の方だけでなく、さらに地域の人材を探し、協働的に子どもを育てる体制づくりを進める。
担当	教務部	
a15		b10
担当		